

釣れ釣れなるままに

2011年思い出の釣行記 PART. 2

弁慶の泣き所

鹿島釣狂

弁慶岬下見

☆釣行日	平成23年4月29日、30日		
☆入釣場所	弁慶岬		
☆釣果	ホッケ	400 mm以下	27
	ソイ	380 mm以下	3
	アブラコ	350 mm以下	5

さてさて、5月の第2回大会はどうでしょうか。またまた事務局長としての責任があると言いつて4月29、30日にかけて釣りに出かけることにした。「とんとん会」の事務局長である湯浅氏が「個人でイソメだけを持ってカレイ釣りに行ってみたい。場所は本目漁港あたりかな」という。いいなと思う。ゴロもコマセも使わずにそういった釣りがしたいものだ。

どうしたものだろう。今回は大平川河口平盤でクロガシラだけを狙ってみようか。いやいやそれなら豊浜平盤につながる湾洞もよさそうだ。しかし、暗いときは寂しいではないか。近くの鷹ノ巣トンネル裏でソイを狙うしかないかなあ。それなら弁慶岬でソイを狙って、明けてから政泊平盤でホッケ釣りという手もあるぞ。いやいや、明け方に江ノ島水田跡でカレイ仕掛けを遠投して置き竿にし、サクラマスを狙ってルアーを引くというのはどうだろう。さあどうでしょうか？そう考えると、あれも用意しなければ、これも用意しなければとだんだんと際限がなくなってきた。

4月29日（金）11時、とにかくまずは高速を使って寿都港に向かって出発した。ホ

ツケの千石場所である政泊平盤を覗いてみると波がかぶって釣り人はいない。波が死んでいる漁港の右平盤には釣り人が入っているが釣れている様子はなかった。弁慶岬はどうだろうと灯台から覗いてみると釣りにはなりそうである。一度、平成19年に弁慶岬に入って優勝した時は駐車場手前の下り口からで随分と遠回りをして難儀した。灯台から直接下りることは出来ないだろうか。灯台脇に付いた急な崖を空身で挑戦してみる。荷物を担いだとしても何とか下りられそうな案配だ。今日はエサにゴロ40、ソイアブラコカジカ1袋、アミブロック2個と比較的軽くしたこともあって下りることは可能だった。

まずは、荷物を置いて付近を見て回る。岬先端から右に300m程の平盤にいた釣り人のところへ訪問し挨拶する。江別の釣り会の御仁で、ここは4/24に82人が参加した河合塾の磯釣り大会で優勝者や3位の者が入ったという釣り場だという。目の前で、早速アブラコを釣り上げた。

今度は岬平盤の左先端の様子を見るが時折うねりが岩盤上を伝ってくるので安全を考えると乗るのを避けた方が良さそうだ。しばらく様子を見てみると灯台の上から2名の釣り人が下りてきたので、慌てて以前優勝した場所に竿を設置した。2名の釣り人は政泊平盤が波をかぶって出られないのでと小さな湾洞に入ってホッケのウキ釣りを始めた。

少し波が高いが徐々に治まると踏んだ。アブラコがきた。夕闇が迫ってきた頃大きなアタリが出たので大きく合わせるとグングンと根に向かって刺さり込む。慎重に取り込むと38cmのクロゾイだった。仕掛けを随分とられたが、午後11時まで粘ってアブラコ5匹、ホッケ3匹、ソイ3匹の釣果だった。一旦弁慶岬の駐車場に戻って酒を飲みながら夜明けを待った。



大会でもこのぐらいのソイが釣ればよいのだが

4月30日（土）午前4時に目が覚めた。今日はホッケのウキ釣りをしてみよう。昨日より波は収まったがホッケの千石場所である政泊平盤にはほとんど釣り人がいない。漁港右の平盤でも竿を曲げている様子うかがえない。唯一、昨日投げ釣りをした灯台下の小湾洞でホッケを上げているのがうかがえる。昨日の2名に新たに2名が加わり4名でウキ釣りをしている。ウキ釣りの準備をして下りていくとその間に新たに4名が加わっており皆、ポツラポツラと竿を曲げている。その一番左に入れてもらったが、私の所は潮の流れが悪いのか全然釣れなかった。

そのうちに昨夜私が入っていた向いの平盤に5名が入ってウキ釣りを始めたが、こちら側が釣れているので移動してきて私の左に連なった。すぐ隣に入った釣り人はごつい延べ竿に大きなウキをつけて釣り始めた。しかも狭いところに2本の竿を出す。案の定、私の仕掛けとオマツリしてしまった。絡まった仕掛けを解きながらも、彼が話しかけてくる話しぶりは人柄が良いと感じさせる。そして自分のところにマキエをたっぷり撒いた。そして、周囲の釣り人のところにもポンポンと撒いてくれる。そのお陰で私のところが並んだホッケ釣り師の丁度中間あたりとなり一気にホッケが寄りだした。右からも左からも私のところに竿が寄りだし釣りづらい状況になってきたが、だましましやって冒頭の結果となった。

後からやってきた若者2名がマグロのエサでサビキ釣りを始めたが全く釣れない。すると先ほどの御仁が自分の延べ竿をその若者に渡してマキエを撒かせる。すると若者にも釣れ出した。なんだか強引な割り込みにも感じていたが、その御仁は周囲を朗らかにしてくれる好々爺だった。

私はもうこれ以上釣っても魚を始末することができないので、ホッケの頭や内蔵を処理することにした。先に釣っていた人達は開きにしてからフラシに入れて海水につけ、しばらく時間をおいてから再度引き上げ、ロープを渡した三脚に吊るして乾かし出した。魚の大きさは狙いより小振りだったがまあまあのソイも上がった事だし、5月の大会はここ弁慶岬に入ることに決定した。

岩見沢釣遊会第2回大会

☆開催日	平成23年5月8日
☆開催場所	寿都港～第二栄浜港
☆入釣場所	弁慶岬
☆釣果	ホッケ 416 mm 9/24
	ハゴトコ 252 mm 1/1

下見から1週間が瞬く間に経った。天気予報は曇りで少々風が強いようだが、波は穏やかだと伝えている。当初の予定通り、弁慶岬駐車場でバスから降りた。一緒に降りた若い坂本氏は、少し戻ったところから暴風柵の脇を通って山中海岸に降りていった。私は灯台から直接弁慶岬先端の平盤に下りた。雨の後なので2度の上り下りを覚悟していたが、途中でリュックを置いてでもよいからと慎重に崖を下った結果、一度で無事下りることが出来た。荷物を少し軽めにしたのが幸いしたようだ。

本日はべた風で広い平盤のどこにでも竿を設置できる状況にある。まずは、左先端で竿を設置した。しかし、アタリは全く出ない。次に、弁慶岬平盤では一番の好釣り場といわれる中央の出岬に出てみる。ここは、少しでも波があると出ることが出来ないのだが、今日は浅い溝を伝って出て行くことが出来るほどの風だったのだ。がしかし、ここでもアタリは皆無だった。満を持してといっは何だが、下見で入った平盤の出岬に出てみたが、ここでも竿を揺らす魚はおらず、時間だけが虚しく経過していった。まだ釣果は零である。

空が薄明るくなってきて海面をみると全くもって透き通っている。岸からドン深なのだが、海底が丸見えの有様なのだ。アタリが出ないわけが分かった。潮の澄んだときに「**弁慶岬の泣き所**」と言われる由縁である。

周囲を見渡すと釣り人は誰もおらず私一人だけだ。他人の釣果を聞いて回るわけにも行かず、一度、空身で灯台まで上がって、弁慶岬周辺の状況を見渡す。釣り人はポツラポツラはいつているのだが皆暇そうにしている。これから荷物を担いで他に移動する元気も出ず、また、もとに戻って、奥まった小湾洞でマキエを打ってホッケを寄せることに専念した。竿3本ともイカゴロ天秤ネット仕掛けにして近投を繰り返すがアタリは全く出ない。

風が出てきた。突風で三脚ごと煽られてバツカンと三脚を海に落としてしまった。バツカンは波を受けて沈んでしまったが、三脚の方は足に空気が入っているため海に漂っている。仕掛けを投げて三脚だけは回収した。

風と共に潮が動き始めたのか初獲物となるハゴトコが釣れた。海水にも少し濁りが出てきたようだ。そしてさらに、竿尻を持ち上げるアタリが出たが根掛かりしてしまった。魚が寄りだしたのを感じる。張り切って打ち続けていると軸の長い天秤の方にホッケが上がった。ようやく2匹目だ。海をよく覗いて見るとホッケが小さな群れを作って回遊している。慌てて残っていたマキエをチビチビ撒いてホッケを散らさないようにする。魚が釣れ始めると更に打ち返しも頻繁になり、それがホッケを散らさない原因になったのかアタリが続いてホッケが釣れ続いた。そして、何とか40cmを超えるホッケも上がった。ホッケの爆釣は締め切り時間間際の一瞬の出来事だった。嫁のハゴトコをアブラコに変えるための釣りもせずに締め切り時間が来てしまった。荷物を片付けてリュックを担いだ時にもう一度海を覗いてみたが、もはやホッケの姿はどこにもなかった。

審査結果（2魚種身長＋10匹重量）

優勝	中江政美	1528点	(クロガシ400mm+アブラコ388mm+7400g)	蒲原平盤
準優勝	川原要四郎	1453点	(ホッケ 365mm+アブラコ363mm+7250g)	栄 磯
3位	鹿島釣狂	1268点	(ホッケ 416mm+アブラコ252mm+6000g)	弁慶岬
4位	山岸 伸	1226点	(カジカ 351mm+アカハラ345mm+5300g)	寿都港
5位	嵐 光博	1176点	(ホッケ 401mm+アブラコ373mm+4020g)	矢 追
身長優勝	吉本孝則	1519点	(アブラコ431mm+ホッケ 372mm+7160g)	栄浜平盤



大会入賞者 前列左から 準優勝：川原 優勝：中江 3位：鹿島
後列左から 4位：山岸 5位：嵐 身長：吉本

審査の結果、私は何とか3位に入賞することが出来た。どこもべた風で潮が澄んでいたために釣果が伸びなかったのだ。優勝者は蒲原平盤でクロガシラ、アブラコを揃えた中江氏、準優勝者は栄磯でカジカ、アブラコを揃えた川原氏、身長優勝者は栄浜平盤でアブラコを射止めた吉本氏だった。

体調を崩していた山岸氏は寿都港に入った。そして暗い内からアカハラ、カジカと規定の魚を揃え余裕の入賞だった。荒磯でビュンビュンと竿を振った過去の栄光を捨て、自分に合った釣りを心がけた山岸氏の完勝である。矢追、歌島川、折川を攻めた強者は鳴かず飛ばずであった。

苫小牧港のクロガシラ

☆釣行日 平成23年5月15日
☆入釣場所 苫小牧西港中央北埠頭
☆釣果 クロガシラ 28cm 25cm ソウハチ20cm 1

釣り新聞に苫小牧西港でクロガシラが上がっているという記事が出た。そして、天気も良くなってきているので出かけることにした。出発前に岩見沢フィッシングセンターでダ

イワサーフ Z3 5A の替えスプールに遠投用として PE 0.8 号と力糸 0.8 号～6 号を電車結びで巻いてもらった。

昼にはまだ早い時間帯だったが、途中、栗山の大鵬ラーメンに立ち寄ると、店の前に行列が出来て溢れかえっている。いつ来てもここのご主人の手さばきが実に見事で心づかいも素晴らしいのに感服してしまう。来客の様子、注文の品、勘定、店員の動きに気を配りながらも、客がラーメンに舌鼓を打ち店主に話しかけていることにも平然と対応している。その間も彼の手は一時も安まることはない。真に熟練された動きで、私の前に並んだお客もみるみる捌けていく。私は並んでいる最中にネギ味噌ラーメン大盛りを頼んだのだが、椅子に座った時と同じくしてそのラーメンが運ばれてきた。これが、また絶妙な味なのである。

午後 1 時、苫小牧西港中央南埠頭に着いてみると釣り人が満杯で入れる隙間はない。先日はここで 5 8 cm が釣れたとい噂が広まり皆ここに集まってきているようで、朝方クロガシラが 2 枚ほど上がったきりで全然駄目とのことである。赤い鉄塔下の人に聞くと、今きたばかりだがクロガシラ 3 0 cm ほど 1 枚あがったという。そして、先日中央北埠頭でクロガシラを 5 枚釣ったので行ってみたが、今日は釣り人が満杯だったのでここにやって来た。これから午後 4 時頃までが狙い目だと思うと話してくれた。

中央北埠頭への道順を教えてもらってそちらに向かった。教えられたとおり国道に出た坂を下って二つ目の交差点を左折して進むと中央南埠頭の真向かいとなる鉄塔に出た。やはり所狭しと釣り人が入っていた。そこで、昨日から釣りをしていたという 5 人家族の様子を伺うと、笑顔で釣果を見せてくれた。そのクーラーには 3 0 cm から 4 0 cm 程が 6 枚も入っていた。鉄塔下のフェンスのすぐ隣の人も 2 枚上げたようだ。そしてそのすぐ隣の釣り人は 5 枚ほど仕留めて少し前に帰って行ったということだ。そこに私一人が入るスペースが出来たので入らせて頂く。

しかし、アタリは出ない。ようやく 4 時頃、ロケットカゴ付きの竿にクロガシラ 2 5 cm が上がった。1 昨年からアナゴを狙って苫小牧港に来るようになったが初のクロガシラである。そして、まもなく 3 0 センチ弱が竿を揺らした。しばらくアタリが途絶えた後 2 0 cm ほどのソウハチが 8 0 m 付近から釣れてきた。

午後 6 時には私のいたフェンス左に大型船が入るのでそこにいた釣り人達は閉め出されて帰って行き、そのうちの一人が私の左に入るので少し竿を移動させて続けたがアタリは出なかった。釣り人もまばらになり、薄暗くなり出したのでキャップライトや竿先ライトを付けずに済むようにと後片付け始めた。しかし、欲を出した 6 本もの竿に手間取ってしまって真っ暗闇となり、高くなったコンクリート壁に気がつかずに「**弁慶の泣き所**」をしこたま打ってしまった。第 2 回大会に続いて「**弁慶の泣き所**」とは……。とほほほほ。



夕闇が迫り、釣り人もまばらになった中央北埠頭